

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2020年9月分)

2020年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[BH政府、外国人へのBH入国禁止措置を大幅に緩和\(10日\)](#)

●[SDAとHDZ、BH選挙法改正合意に向けた政党間交渉を本格化\(16日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[コナコビッチNiP党首、サラエボ・カントン政権交代の早期実現の可能性に言及\(8日\)](#)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[BH検察庁、スレブレニツァ虐殺に関与の容疑でビシュコビッチRS首相を捜査\(18日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[ジャフェロビッチBH大統領評議会議長による国連総会一般討論演説\(23日\)](#)

●[BH大統領評議会3メンバーのブリュッセル訪問\(30日\)](#)

(2) 二国間関係

●[ドディック大統領評議会メンバーのクロアチア訪問\(16日\)](#)

(3) 日・BH関係

●[坂本大使のツィコティッチ治安大臣との会談\(9日\)](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[トウズラ火力発電所7号炉の建設開始\(1日\)](#)

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●[BH政府、IMFに対し追加の資金借り入れを要請\(10日\)](#)

(注: 本月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●BH政府、外国人へのBH入国禁止措置を大幅に緩和(10日)

BH閣僚評議会(中央政府)は、日本を含む全ての外国人に対して、検体採取から入国まで48時間以内の新型コロナウイルス検査陰性証明書の提示を条件に、BH入国を許可する方針を決定。国内での感染拡大が本格化して以降、BH政府は外国人の入国を厳しく制限していたが、7月のEU加盟国市民に対する制限緩和に続き、今回、一般の観光客を含む全ての外国人に対する入国制限の大幅な緩和に踏み切った。

●チャンパラBH連邦内相、SDA幹部会を辞任(13日)

チャンパラBH連邦内相(サラエボ・カントン議会議員)がSDA幹部会を辞任。チャンパラ内相は辞任理由として、同党が絡む汚職疑惑に対する党の対応への不満などを挙げ、党執行部を非難した。当国では同人のSDA離党の可能性が囁かれる中、イゼトベゴビッチSDA党首は、仮にチャンパラ内相が離党しても党勢への影響は無いと述べ、同人による執行部批判には取り合わない姿勢を示した(注:10月9日、SDAサラエボ・カントン支部はチャンパラBH連邦内相の党籍はく奪を決定した)。

●SDAとHDZ、BH選挙法改正合意に向けた政党間交渉を本格化(16日)

SDA(ボシュニャク系与党第一党)とHDZ(クロアチア系与党)が、BHクロアチア系が要求するBH選挙法の改正に向けた政党間交渉を本格化。本件問題をめぐっては、改正内容に関し本年末までの大筋合意を目指す旨の

両党間の覚書が6月に結ばれている。一方で、同法改正に対してボシュニャク系連立与党の間で反対論が根強いことから、交渉の難航も予想されている。

●ドディック大統領評議会メンバー、BHのコソボ国家承認に拒否権行使の方針(17日)

BH大統領評議会は、BHIによるコソボの国家承認を求めるコムシッチ・クロアチア系メンバーの提案を、次回以降の大統領評議会において議題とすることを決定。これに対してドディック・セルビア系メンバーは、仮に同提案が可決された場合には、その執行差し止めを求め「民族の死活的利益」の拒否権(VNI)を行使する方針を述べた。

●BH政府、先の紛争における戦争犯罪容疑者の訴追に向けた国家戦略を採択(24日)

BH閣僚評議会は、先の紛争における戦争犯罪容疑者の訴追に向けた国の中期戦略文書を採択。同戦略の策定は、EUがBHのEU加盟に向けた取組の一つとして求めているものでもある。現在、BH国内で紛争中に発生した戦争犯罪の未解決事案数は550件に上るとされており、BH検察は今後、今回採択された戦略に基づき、2023年までにこれら未解決事案の容疑者の特定および訴追を進める方針である。

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●コナコビッチNiP党首、サラエボ・カントン政権交代の早期実現の可能性に言及(8日)

コナコビッチ「人民と正義」(NiP)党首が、本年11月の統一地方選挙の前にも、SDA主導の現サラエボ・カントン政権に対する不信任決

議案を野党4党が同カントン議会に提出する方針である旨を発言。本件をめぐっては、同議会議員も務めるチャンパラBH連邦内相(SDA)が党執行部との対立を背景に13日にSDA幹部会を辞任。同人の対応次第では現在議会過半数ぎりぎりのSDA政権が議会過半数割れとなる見込みもあることから、注目が集まっている。

●プレンコビッチ・クロアチア首相のモスタル訪問(14日)

プレンコビッチ・クロアチア首相がモスタル市(BH連邦)を訪問し、チョービッチHDZ党首と会談。プレンコビッチ首相は、BH選挙法改正問題に関するSDA・HDZの政党間交渉の本格化を前に、クロアチア政府として引き続き、BHクロアチア系を含む構成3民族間の対等な権利保障をBH政府に要請していく方針を述べた。

イ. スルプスカ共和国(RS)

●「セルビア民族の団結・自由・民族旗の祝日」の記念式典の開催(15日)

RSの中心都市バニャ・ルカにおいて、RSとセルビア共和国共通の祝日として本年新たに導入された「セルビア民族の団結・自由・民族旗の祝日」の記念式典が開催され、ドディック大統領評議会セルビア系メンバーらRS要人のほか、ブリン・セルビア国防相が出席した。同祝日は、本年8月にドディック・メンバーとブチッチ・セルビア大統領の合意を受けて導入されたものであり、今回は同祝日の導入後で初めての式典開催であった。

●BH検察庁、スレブレニツァ虐殺に関与の容疑でビシュコビッチRS首相を捜査(18日)

BH検察庁は、スレブレニツァ虐殺(1995年)に関与した容疑でビシュコビッチRS首相を捜査中である旨を発表。本件をめぐっては、BH国内のポータル・サイトが、先の紛争中にスルプスカ共和国(当時)の警察幹部であったビシュコビッチRS首相が、スレブレニツァのボシュニャク系住民虐殺に関与した疑いを報じていた。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●ジャフェロビッチBH大統領評議会議長による国連総会一般討論演説(23日)

ジャフェロビッチBH大統領評議会議長(元首、ボシュニャク系)が第75回国連総会一般討論でビデオ演説を実施。ジャフェロビッチ議長はこの中で、新型コロナウイルス問題に際してBHに寄せられた各国の支援に改めて謝意を述べたほか、本年で25周年を迎える Dayton 和平合意の完全な履行に向けた決意を表明。またBHにおける移民・難民問題については、BHに対するEUの更なる支援拡充の必要性を訴えた。

●BH大統領評議会3メンバーのブリュッセル訪問(30日)

BH大統領評議会3メンバーがブリュッセルを訪問し、サッソーリ欧州議会議長、ボレルEU上級代表、ヴァールヘイ欧州委員会近隣・拡大政策担当委員とそれぞれ会談。BHのEU加盟に向けた14項目の課題に対する過去16か月間の取組のほか、BHにおける移民・難民問題、更にBHが参加を検討中の西バルカン諸国による「ミニ・シェンゲン」構想につき話し合った。

(2) 二国間関係

●ドディック大統領評議会メンバーのクロアチア訪問(16日)

ドディックBH大統領評議会メンバーがクロアチアを訪問、同国のミラノビッチ大統領およびプレンコビッチ首相と会談し、BH選挙法改正問題などにつき話し合った。一方で、BH国内の一部では、BH大統領評議会での訪問の招待を受けたのがドディック・メンバーのみであったことに批判が集中、ボシュニャク系要人の間では、今回のクロアチア政府の対応はサラエボ中央政府軽視の同国外交姿勢を象徴したもの、との見方が広がっている。

●BH大統領評議会、在イスラエルBH大使館のエルサレム移転案を否決(17日)

BH大統領評議会は、現在テル・アビブにある同国の在イスラエル大使館のエルサレム移転を求めるドディック・セルビア系メンバーの提案を反対多数で否決。これに先立つ9月4日、プチッチ・セルビア大統領は同国の在イスラエル大使館のエルサレム移転方針を決定(セルビア・コソボ間合意の一部)しており、今回、ドディック・メンバーはセルビア政府の方針に足並みを揃える形で在イスラエルBH大使館のエルサレム移転を提案していた。

●イゼトベゴビッチSDA党首とチョービッチHDZ党首のクロアチア訪問(28日)

イゼトベゴビッチSDA党首、チョービッチHDZ党首、トゥルコビッチBH副首相兼外相(ボシュニャク系)が揃ってクロアチアを訪問し、同国のプレンコビッチ首相およびグルリッチ＝ラドマン外務・欧州問題相と会談。本年末までの大筋合意を目指しSDA・HDZ間で交渉が続く

BH選挙法改正問題およびBH・クロアチア両国間関係につき話し合われた。

(3) 日・BH関係

●坂本大使のツィコティッチ治安大臣との会談(9日)

坂本駐BH日本大使はツィコティッチ治安大臣と会談し、治安・防災分野における日・BH二国間協力の促進につき話し合った。坂本大使が同分野における協力深化への期待を述べたのに対して、ツィコティッチ治安大臣はBHにおける移民・難民問題の現状を説明しつつ、BH国境の管理強化に向けた日本との協力拡大への期待を述べた。



(写真: 坂本大使とツィコティッチ大臣)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●トゥズラ火力発電所7号炉の建設開始(1日)

トゥズラ火力発電所(BH連邦)において、新型コロナウイルス問題により本年3月以降延期されていた同発電所7号炉の建設作業が開始された。8月には建設作業を請け負う中国企業の技師らがBHに到着しており、今後、ピーク時には1,000人規模で建設作業が行われる見通し。今回のトゥズラ火力発電所7号炉

建設計画は、先の紛争終結以降ではBH国内最大の投資計画となる見込みであり、投資総額は約7億ユーロに上る。

●BHとクロアチア、両国国境に架かる橋の維持管理に関する合意を締結(30日)

ミトロビッチBH運輸・通信相はクロアチアを訪問し、同国のブトゥコビッチ海事・交通・インフラ相と会談。両大臣は、BH・クロアチア国境に架かる橋の維持管理および再建に関する両国間合意を締結した。会談後、両大臣は、今回の合意は両国間の交通連結性の改善に向けた更なる前進であるとして、合意を歓迎する旨発言した。

(2)経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●BH政府、IMFに対し追加の資金借入れを要請(10日)

テゲルティヤBH閣僚評議会議長は、BH政府が追加の資金借入れに向け、国際通貨基金(IMF)との間で交渉を行う予定である旨を発表。新型コロナウイルス問題による経済減速が顕著となる中、BH政府は長期の借入れ実現に向け、10月中にもIMF側との交渉を開始する見込み。

●米国と独、BH国境警察に対する支援を実施(23、24日)

BHへの移民・難民の流入増加を受け国境管理体制の強化を進めるBH国境警察に対して、米国と独がそれぞれ支援を実施。このうち独は、国境警察の専用車両のほか、懐中電灯や内視鏡など、総額85万ユーロ相当の支援を実施した。

●EU、新型コロナウイルス対策でBHに追加支援(24日)

EUは、新型コロナウイルス対策としてBHに対して総額90万ユーロ規模の追加支援を実施。同日、サトラー当地EU大使同席のもと、サラエボ市内において医療用防護服など30トンおよび心電図モニター40台の寄贈式典が行われた。